

「春の小石川植物園(4)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋



春の小石川植物園では、十歩進むたびに、花に出会う。これは「ヒイラギナンテン」*Berberis japonica* メギ科の灌木である。japonica だから日本原産か日本特産なのだろう。虫媒の方法が独特な花である。



春とは言え、遠目には森はまだ「冬枯れ」の風景だ。



「フウ(楓)」*Liquidambar formosana* の新芽が低い位置にあった。リーフ・グリーン色で美しい。



秋に落ちた葉が根元に落ちていた。これは近縁種の「モミジバフウ(紅葉葉楓)」*L. styraciflua* のものである。比較すると大きさや鋸歯(葉の周辺のギザギザ)の発達の違いがよくわかって面白い。



林床にはスミレもたくさん咲いていた。最初のごく普通のタチツボスミレと思ったが、花卉や距(きょ=花の後部にある袋状の部分)の特徴から、「アオイスミレ」*Viola hondoensis* のようである。



これが横から見たところ。地面に寝転がって、接写で撮影した。距が大きく突きだしている。スミレは種類が多く、同定が難しい。植物園を歩くのだから、せめて牧野の学生版ぐらい持ち歩けばよかった。